

ている。そこで、この偏りを是正するために、最近、中央山塊を横断する東西交通の開発が国家の地域計画の一環として重視されるにいたっている。

大都市から隔たったこの地方における工業の発展には立地上限度がある。そこで、第二次大戦後、クレルモンソーフェラン大学が拡張されるとともに、サンテチエンヌトリモージュに、新たに国立大学が設立された。また、トリモージュには、郵便局の財政事務の全国センター、郵便局員の養成機関などが設立された。これらは、この地方の振興という目的もあって設立されたものであり、事実、雇用面でもかなり大きな役割を果たしている。

なお、この地方の都市では、都市周辺部における工場と新興住宅地の建設と並んで、古い住宅地の改良が進められている。この地方の都市の発展にとって、農村人口の減少が大きなマイナス要因になっていることを考えると、混合経済会社などによる農村の振興が改めて注目されなければならない。

#### 岡山県におけるぶどう栽培地域の変容

岡山県立備前東高校 河合保生

岡山県におけるぶどう栽培は、明治8年の導入以後県南各地の丘陵地に拡大し、産地形成が進行したが、特にマスカットの温室栽培は全国的に著名となった。しかし、昭和42年以降県南の都市化進行地域を中心に栽培面積の減少が顕著となった。ただ既成産地の中にも積極的に産地の拡大を図っているところもあり、農業構造改善事業を契機に県中・北部に新興産地が出現し、全体的には産地の維持が成されている。

岡山県では農協や出荷組合を通じての出荷体制が確立しており、それぞれの出荷団体を一産地と捉えることができる。そこでウェーバー法を使用して産地を分析すると、I. キャンベル型、II. ベーリーA型、III. ネオマスカット型、IV. 温室ぶどう型に大別でき、栽培品種では前記4種（温室ぶどうはマスカットとコールマン）の他スーパーハンブルク、ヒロハンブルク、デラウェアが主要なものとなる。その中でも従来から県の代表品種であったキャンベルの地位は著しく低下し、他品種への転換が見られるようになった。高級品種への対応は、温室ぶどうやネオマスカットに代表されるハウス栽培への指向が強く、巨峰等新品種の積極的導入は顕著でない。

#### デカン高原の農村集落とその変貌

広島大学 藤原 健蔵・中山 修一・  
米田 巖・貞方 昇・  
福岡 義隆

1980年度現地調査をしたカルナータカ州ライチュール県イエルド村を事例として、デカン高原の農村集落の特徴および大規模灌漑に伴う変化の種々相を報告する。

ミレット作を中心とする天水農業に依存していた同村は、1957年の用水路灌漑導入以来、イネ作にラッカセイなど商品作を加えた経営に転換した。労力需要の急増は大量の村外労働力を吸引し、1951年1,223人であった同村の人口は、1980年現在4,521人にふくらんだ。これら来村者の居住問題に加え、農業の変質・大規模化に伴う在来農家の村内移動があり、典型的な格子状集村をなしていた同村の集落形態に急速な変化が認められる。

こうした変化を通じて、開発途上国における農業開発のあり方が問い直されよう。

#### ネパール・ヒマラヤ南東部の活断層

広島大学 中田 高

ネパール・ヒマラヤのサプトコシ河以東の山麓地域の活断層の特徴から、プレート境界における地殻変動の様式を明らかにしようとした。

本地域には Main Boundary Fault と Himalayan Front Fault の二つの活断層系があり、ヒマラヤと外ヒマラヤの境界ならびに外ヒマラヤとガンジス平原との地形境界をなしている。

活断層系は長さ数 km~10 km の多数の断層線によって構成されており、それぞれ、山地や斜面、河岸段丘、扇状地を変位させ、低断層崖、断層鞍部、段丘崖のオフセットなどがよく保存されている。

断層線の走向および断層変位様式は場所によって変化する。すなわちインドプレートとアジアプレートの相対運動の方向によって規定された南北方向の広域応力場のもとで、東西方向の活断層に沿っては無直変位成分の卓越する逆断層変位、北東-南西方向の活断層に沿っては左横ずれ成分の卓越する断層変位、北西-南東方向のものに沿っては右横ずれ成分の卓越する断層変位が認められる。

これらの活断層に沿っては一般に山地側が隆起するような変位様式が認められるが、Main Boundary Fault に沿っては変位が認められるところもあり注目される。本地域の活断層の多様性は二つのプレートの衝突の複雑さを反映するものといえる。